
ウノ×クロ

幾夜 憂生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウノ×クロ

【Nコード】

N6022D

【作者名】

幾夜 憂生

【あらすじ】

攻撃以外のチカラを専門とする、魔力を奪われた魔女。攻撃のみのチカラを専門とし、魔力を奪い黒猫になり名前を無くした誰か。妙な絡み具合の二人が再構築のレシピを探すために旅に出る――。

0 - 0 ・旅立ち

…君は…自分の名前を覚えているのかな？

ああ、覚えているさ。俺様の名は――。あれ？出ないぞ？頭に浮かぶのに、言葉にならない。

それは――私の力を、強欲に全部持っていったシルシなんじゃない？フフ。貴方にナリキレテイナイからだよきっと。

何？な…！？な…なんで俺が…黒猫！？ベツモノじゃねえか！何したテメエ！

さあ？わからないよ。…きっとね。私と一緒にいなさい、ということじゃない？ほら…チカラを辿ってごらん？？

ん？……ん……お……おい！なんだこれ！待てよ！繋がっているじゃないか！

あはは…私、戻し方知らないよ…？どうする…？どうする…？どうする…？

あー？ナメた口聞くんじゃねえ！探すんだよ！探しに行くんだよ！色んな場所に！全力で！

うーん、面白そうだね？魔女、猫と一緒にブラリ旅。…悪くない、悪くない悪くない。とびつきり楽しそう！

よし！そうと決まったらホウキだせよ！ホウキ！ビューンと飛んでさっさと聞きにいこうぜ！

…わかってないなあ。
攻撃以外を専門とする私。
攻撃のみを専門とする君。
魔力がない魔女。
魔力がある黒猫。
ホラ。言ったでしょ？ブラリ旅って。

ふざけんなよ！？アレか！猫さん歩み遅いよ日が暮れるよ一日で終わらないよってか！ふざけんなー！

でもでもでも。ここにあるのは作り方のレシピだけ。再構築のレシピはないよ？ホラホラホラ。いくしかないよ。

チツ。めんどくせー！わあっ たよ、行くよ！
…明日な明日。

よし、よしよし！私、豪華な晩ご飯作るからね！！楽しみにして
いてね！！

おう！よし、ステーキにしようぜ！？ブラックペッパーやガーリックをかけて、そんでもってトリュフを薄くスライスしたのに乗っ
けんのさ！あゝうまそう！

ん…でも君…猫だね？香辛料は良くないんだよ？ってことで。猫
まっしぐら猫缶特盛りね！

ニャー！？そんなのイヤだー！！許せーん！そんな暴挙禁止の猫
パーンチ！

かわいいかわいい！！わかった！贅沢にもプラチナ猫缶
特盛りにしてあげるっ！

だーから！イヤだー！

三

0 - 1・旅立ち

黒いローブを身に纏い蛇を模した杖を握り締めたウノは、機嫌悪そうに街道を歩いていた。

「…ブラリ旅が楽しそうとか言ったヤツ、手えあげな」

ウノの頭の上から声がする。

声の主は、まあ黒猫だったりするわけで。

表情筋が豊かでは無い筈の猫なのに、器用にも憎たらしいイヤミ顔を作り上げている。

「はあ…はあ…はあ！仕方ないじゃない！だって私…魔女だよ。体力なんてないよー魔力もないしー」

息を切らしながら前に歩こうとする彼女の姿はなんともいじらしい。

「フーン。ま、今目指している場所に金を掛けずに行く、なんて元の俺でも無理だけどな」

クロが尻尾でピタピタとウノの顔を叩いていると、ぴくんつ、とウノの肩が震えた…様な気がした。

片手でクロの首根っこを掴み自分の前に持って来るウノ。

「へえー…これから行く場所は物価が高いからなるべく金を使うないいなと言って、最後の馬車を見送らせたのは誰でしょうかねー？」

ジットリとクロの目を覗き込むウノ。

さすがと言うべきか、その表情には年齢にそぐわない魔女独特の
凄みが附加されている。

「な…何を言ってるんだろーな…。しょっぱなから俺の金を当てに
していたくせに！う…離せ…ニャー！フギャー！」

猫パーンチ猫パーンチと四肢を繰り出すが、人と猫のリーチの差
を考えるとその距離は明らかにクロの敗北を意味する。
戦わずして――クロの敗戦である。

ガシャラガシャラガシャラ…

遠くから馬車の音が聞こえてくるのだが、まだ二人は喧嘩に夢中
である。

しかも街道の真ん中で。

ガシャガシャガシャガガガガ！

「…ちよつとそこの蒼髪のヒト何してるの？？」

清楚可憐でプラチナブロンドを携えたどこぞのプリンセスかと見

紛う程のお姉様。その彼女が馬車から喋りかけたところでやつとウノはその存在に気付く。

「ふえ？あ…ああ、お邪魔でゴメンナサイ。クロー！止めなさいってば」

ニヤーニヤーと、尚も猫パンチを繰り返しているクロを胸元にしっかりと抱き抱え道の端に寄る。

「…うーん…蒼髪の貴女？何処に行くのかしら？」

「私？私は…ホラ、あそこ。輝きの町に行こうかな」とか

それを聞いて、プラチナブロンドの彼女は何やら従者と話をしてからウノに喋った。

「私も…そこに行く用事があるの。女性の一人歩きは危ないわ。どう？一緒に一緒なさない？私が誘ったんだもの。代金は私が持つわ」

…ウノにはとても魅力的な提案だった。

クロと目を合わせ、軽く頷く。

彼の瞳の奥曰く、使えるならなんだって使え、だそうだ。

「嬉しい嬉しい嬉しい！じゃあお願いしようかな？…あ、えっと。私、ウノと言います」

「私は…アイリン・クロウリーよ。ヨロシクね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6022d/>

ウノ×クロ

2010年12月4日04時51分発行